

新しいエルサレム案内

新天新地の7つの特徴

黙示録 22 章前半

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆さん、こんばんは。お寒い中、このように集まっていただき感謝しております。**ざっくり黙示録**も約3年掛けて、遂に**黙示録**の最後の章にまでやって参りました。この**22章**を前半と後半に分けるのでもう1回やるのですが、後半は黙示録の実質の後で勧めの言葉なので、預言書としての黙示録は今日が最終回です。長い間 途中投げることなく続けることができたのは、聖書を知りたいという聞き手のおかげだと考えております。本当にありがとうございました。

今日は**新しいエルサレム案内**（行ったことないのにね）、**新天新地の7つの特徴**ということでお話ししますが、ひと言でどういうところなのかということですね。

私は大阪府立羽曳野高校で3年間勉強しました。ブドウ畑のど真ん中にある高校で、すごく楽しい時代でした。この高校は、1年生2年生が10キロマラソンをやるんですよ。学校を出て、この辺りを延々と走り続けて、ちゃんとタイムも取る。校内マラソン大会。ほんとに迷惑な話で。「なんで走らなあかんねん」言いながら。

その大会が近づくと、体育の授業はもっぱら走り込みなんです。ずーっとグラウンドを何周も延々と走るんです。ある時、体育教師に呼び出されました。「高原、ちょっとこっち来い!」「はい、何ですか?」「真面目にやれ!」ひどく叱られたんです。いや、真面目に走ってましたよ。でも、「真面目に走ってましたけど」言えなかったんですねえ。おっそろしい体育教師だったんです。

不真面目に見えた。なぜ不真面目に見えたのか。楽しそうに走っていたから。スポーツというのは、真剣にやったらしんどいに違いない。苦しそうに走って初めて真面目に走っているのであって、楽しそうに走っているのは不真面目である。

そこで私は、楽しそうに走っていることをお詫びした…ということなんですが、ちょっとね、楽しむことに罪悪感を感じるような昭和の文化が私の高校時代にはあったのですが、皆さんはどうでしたか。

これから集会が始まる。「楽しもうぜ!」と言ったら、「ちょっと!真面目にやろうよ」と考える方がおられると思うんですね。

去年 関東の集会・教会に招かれた時、あるゴスペルシンガーがおられました。何枚もCDを出して、私のラジオ番組『聖書と福音』でも、何回も紹介している方です。本当に充実した集会でした。彼女はその集会のクリスチャンたちに、ゴスペル指導をしているんです。発声練習や、歌は全力で歌えばいいというものではなく

抑揚というか、強調したいために初め弱く歌うとか、色々あるじゃないですか。私も参加させてもらったんですが、その時彼女が言ったひと言が忘れられません。「皆さん、練習は緊張してやりましょう。でも、本番では練習のご褒美で楽しみましょう。たとえミスしても、それも楽しみましょう。喜びは神様に一番ふさわしいささげ物になるからです。」

しかめっ面して「神よー」ばかりが礼拝じゃない。神が喜ばれるのは喜びの礼拝。今日紹介する新しいエルサレムはどんな都なのか。ひと言で言うと喜びの都。喜びが満ち満ちている都。これが**新しいエルサレム**です。

今までのざっとした流れを紹介すると、**黙示録**はほとんどのページ数を7年間の**艱難時代**に割いています。

艱難時代はいつ終わりますか。**キリストの地上再臨**で強制終了です。

キリストの地上再臨後、サタンがアビスという底知れぬ穴に閉じ込められて、千年間の地上天国のような時代/**千年王国**が始まります。

千年王国が終わると**白い御座の裁き**があって、そして、今紹介している**新しい天と新しい地**。

今 地上はここです。天は上です。天と地は交わりません。しかし、新天新地は天と地が合体する世界。新しいエルサレムが天から降りて来て、この地上に合体した。

**21章**は新しい天地の中の、特に首都である新しいエルサレムの外観の説明でした。門はいくつあって、何で出来ていて、どんな名前が付いていて…という、新しいエルサレムを外側から観察した特徴。

**22章**は新しいエルサレムの内部の説明です。3つの特徴が語られ、その後に、この新天新地は7つの領域において、完全な実現した世界であることを紹介しています。そこで今日は7つの特徴、その前に、新しいエルサレムの内部の特徴について、一緒に考えたいと思います。

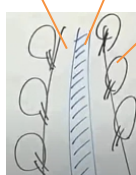
## 黙示録 22章

**1** 御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、

**2** 都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒した。

ここに新しいエルサレムの3つの特徴が出て来ました。

大通り 川 いのちの木



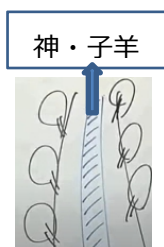
① 都の中央に大通りがある。

② 大通りの中に川が流れている。いのちの水の川。

③ 川の両側にいのちの木が立っていて、毎月異なる種類の実がなる。

これが新しいエルサレムって…。これ見たら、行く気なくなるというかね。  
この程度やったら、べつに行かんでええわ、みたいに思うかもしれませんが、これ私の絵心がないからであって、こんなとこに行くんじゃないんだから。  
あることを説明したいから、模式図的に描いているんです。

大通りの中央を流れている川の源流は何でしょう。



1 川は神と子羊の御座から出て。この川の源流は王座／御座です。  
神と子羊（イエス・キリスト）から、いのちの水の川が流れている。  
この大通りを行く人の終着点は御座なんです。

聖書を知りたいと思って集会に来ること、聖書をもっと学びたくて通うことについて、ある人たちは困難を覚えますよね。

今日は来られてませんが、毎月ずっとこの“ざっくり黙示録”に参加しているある方は、家族に内緒なんです。キリスト集会に通っていることが家族に明らかになると、家の中がごたつくということ。

ご主人が反対、奥さんが反対、家族が反対…色んな理由で、神に近づくことは多くの反対や争い・いさかいの原因になるので、こっそり来なければならぬ。  
ある人たちにとって神に近づくことは険しい道、曲がりくねった道、細い道、狭い門。それは、この世界が神から離れている世界だからです。

“この世の神”という別名を持っているのがサタンです。サタンは何とかして人が神に近づくことがないように、神を求めないように、ありとあらゆる策を行います。しかし、新しいエルサレムにおいては、神のみもとに近づくというのは大通りを行くことです。神に近づくのに困難はない。それはもう過ぎ去ったことである。それどころか、神のみもとに近づけば近づくほど、素晴らしいものと出会うことになるんですね。

1) 都の大通りの中央をいのちの水の川が流れている。いのちの水の川は水晶のように輝いている。

水晶のように。水晶ではない。水晶だと硬いから水にならない。  
ヨハネは「自分が知っているものの中で、一番透き通っているものは何か。水晶だ」と思って、そう言ったんじゃないかと思えます。  
水晶のように輝いているいのちの水の川は、何のために流れてるんでしょう。  
水源地は神と子羊の御座です。そこから流れて来るいのちの水の川は、ただ「キレイなあ」と眺めるためにそこにあるんでしょうか。そうではないと思うんですね。

6 また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしは渇く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。」

この川を流れている水はいのちの水。ここではいのちの水を飲ませると書いてある。渴きを癒すために。神のいのちに触れて行くような、一層神のことが分かるようないのちの水を、すべての人が好きなだけ触れて、飲んで、楽しむことができるんですね。

2) こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。

この時、月も太陽も無いんです。それで毎月って、どうやって勘定すんねんと。天体の動きに依存しない暦が、この時に成立しているようですね。

毎月いのちの木の実が変わるって、桃の木があって、1月に桃がなって、2月にリンゴがなって、3月に梨がなって、4月にブドウがなってとか、そんなんありえへん。でも、実が毎月変わるんですよ。

なぜ実がなっているかというのと、見るためではなく食べるためです。私たちはなぜ食べるのか。食べないと死ぬからです。生命維持のために食べている。でも、新しい体になっているんですよ。栄光の体は、食物に依存して初めて生きることができる、というのではないんです。

では、なぜ食べるのか。楽しみのためです。なぜ飲むのか。楽しみのためです。天国・新しいエルサレムは喜びの都。皆さんも食べるのが好き。それだけがね、いや それ以外にも楽しみあるけど。私たちに味覚を創造なさった方は、私たちを喜ばせてくださる方ですね。

喜びの都が新しいエルサレムなんですけど、一つ解せないことがあるんです。それは、**その木の葉は諸国の民を癒した。**癒した…。栄光の体に変えられて、呪われたものは何一つ無いのなら、病気にならないんじゃないですか。病気もケガも事故も、そういうものが一切無い世界で、なぜ癒しを与える木の葉が生えているのか。

癒したということは、癒された人がいるということですよ。新しい天と地の都で、なぜ癒される必要があるのか。そもそも病気はないではないか。これは2つの可能性があります。

①クリスチャンはやがて栄光の体に変えられて、新しいエルサレムに行きますが、地上で経験したすべての記憶がゼロになるのかということ、そうではない。地上で経験したこと・受けた恵み・ピンチの時に神に助けられたことなど、いっぱい覚えていて、天国で「あの絶対的ピンチの時、神よ、あなたが介入して助けてくださいました。命拾いしました。あなたは命の恩人です」と、賛美や感謝が絶えないと思います。

だけど、その絶体絶命のピンチの中で、やっぱり嫌な思いをした。  
また、非常に厳しい成育歴で、虐待されたり踏みにじられた。  
或いは、目の前で家族が殺された。もう思い出すのも辛いことがあるでしょう。

ある方はこう言うんですね。「地上で受けた一切の忌々しいことを癒すのが、この葉の効力ではないのか。」  
こうだと言っているのではなく1つの説です。そうかもしれません。

②癒した。日本語では動詞ですが、これは名詞で“癒しの木の葉”なんですね。  
癒しはギリシア語でセラペイア。ここからセラピーが出て来るのですが、セラペイアには奉仕する・促進する・貢献するという意味もあります。

つまり、新しい体で生きている人々の、神に感動する感覚が一層豊かになるように促進させるもの。神の栄光を深く味わうために必要な感覚や能力・賜物が冴えわたるように貢献するもの。  
病人を癒すというよりも、健康な人を一層健康にするのがこの葉の役割ではないか。  
良い状態を、ますます良い状態に引き上げていくものではないか。  
天国は完成形だが、ゴールだけがあるというよりも、無限に良いものに成長し続けていく世界ではないか。

私はどちらかという、後者の方がいいかなと思います。  
これは完全に好みの問題で、私はそうだったらいいなと考えています。

さて、ここから、新しい世界／新天新地において 神が実現する7つの完全について紹介します。

**3 もはや、のろわれるものは何もない。神と子羊の御座が都の中にあり、神のしもべたちは神に仕え、**

**4 御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の御名が記されている。**

一つずつ見て行きましょう。

**①もはや、のろわれるものは何もない**

完全な回復の実現。

聖書から見た時、人類史上 良い時代が2回あります。

1つは罪が入る前の**エデンの園**時代。創世記2章まで。

もう1つは、メシアが直接統治する**千年王国**の時代。この2つは良い時代です。

しかし、罪が入る前の**エデンの園**の時代は、人間にはどこにも罪がないけど、サタンがエデンの園に出入り自由なんですね。サタンはエデンの園に入り込んで、最初の人間を誘惑する許可を持っています。

人の体の中に罪の性質は無いけどサタンが活動できる。誘惑を受ける時代でした。

サタンは呪われるべきものです。だから、エデンの園に呪われるものは何も無いとは完全に言い切れない。サタンが活動しているんですね。

**千年王国**の時代は、サタンは底知れぬ穴アビスに 1000 年間閉じ込められているので、非常に平和な時代です。しかし、千年王国に住んでいる人の中には、アダム伝来の罪の性質を受け継いでいる人たちがいます。サタンの誘惑を受ける余地はないけど、自分自身の性質の中に罪の性質を宿している人たちがいて、どんどん人口が増えていくんですね。それで、サタンの活動がないにも拘わらず、罪が現れてしまうことがあるようです。「100 歳までに死ぬ者は呪われた者と言われる。」  
そういう人たちが実際に出るといふことなんですね。

どちらも、**のろわれるものは何もない**とは言えない状態ですが、新天新地では、本当にどこをどう捜しても、**のろわれるものは何もない**。どこにもないんです。サタンは滅び、人間の罪の性質は完全に消え去り、神の理想が完璧に実現している。そして、**のろわれるものは何もない**とは、本来祝福したい神ご自身にも喜びの環境なんですね。新天新地には**のろわれるものは何もない**。  
すなわち、完全な回復が実現している世界なのです。

## ② 神と子羊の御座が都の中にある

完全な統治の実現。

御座は王座のことで、政（まつりごと）をする中心であり、礼拝を受ける中心です。**神と子羊の御座**。この御座は単数形なんですね。神と子羊だから椅子が 2 つの複数形じゃないのか。いいえ。神とキリストは一体。三位一体の真理が、ここにも表われていると思います。

**都の中にある**。都の隅っこに追いやられているんじゃなくて、都の御座に着座されている。隅々に至るまで、神とキリストの統治が行き渡っているのです。

私の長男夫婦が、本人がいるのでちょっとアレなんですけど、このすぐ近くのマンションに住んでいます。そこには、この集会のメンバーがもう二組住んでるんですね。段々クリスチャンが増えて、1 階も 2 階も 3 階も 4 階も全部クリスチャンになったら、トキワ荘クリスチャン版みたいになっていいなと思うんですけど。

たまに遊びに行くと、1 歳の赤ちゃんがいるので、変わった形のコップ、変わった形のエプロンとかよだれ掛けとか、何て言うのかよう分からん。

変わった形の食器、倒してもバーッとこぼれないような、飲みたいときだけ液体が出て来る形の、工夫された物がたくさん置いてあるんですねえ。

そして、1 歳児用の玩具があって、部屋に入ると、色で言うならピンク色。

ももいろ~の世界。ほんわかしてね、幼稚園・キンダーガーデンの感じを受けます。

もう二組の方はどんな風になってるんだろう。入ったことないので分からない。

分からないけど、多分ピンク色じゃないと思います。

家って、家の主の好みやライフスタイルが家に出て来るんですね。

その人がミニカーオタクなら、ミニカーだらけになっていると思います。  
その人が片付けができない人なら、ゴミ屋敷になっていると思うんですね。  
その人がお茶が好きで茶道を究める人なら、茶室にしていると思います。  
主人がだれかによって、その家の趣・雰囲気・壁紙の色とかがまるで変わって来る。  
オーナーが変わると、家はガラッと変わるんですね。

新しい天と新しい地は、神と子羊がオーナーとして完全に君臨して統治している。  
ということは、新しい天と地はどんな国かというと、キリストのような国なんです。  
キリストのような国って、どんな国？良いことって、中々想像しにくいですね。

皆さんはダンテの『神曲』、読んだことがありますか？  
あの作品で一番読みごたえがあるのは『地獄篇』です。  
ピラトも出て来る。ユダも出て来る。『天国篇』はあんまり…響きへん。  
酷い目に遭っている描写って、ものすごい迫力あるけど、天国のことは「いやあ、  
それくらいやったら私でも…」って、ちょ言い過ぎかも分からへんけど。  
良いものってあまり見たことがないからか、想像力追いつかないけど、酷いものは  
色々サンプルが転がっているんで、すごく迫力があって説明できるんですね。

でも、新天新地はキリストのご人格がどこ見ても、曲がり角一つ見てもキリスト的  
な…って、よう分からへんけど、完全な統治なんですね。  
息をしているだけで楽しくなる。嬉しくなる。ワクワクするようなところですよ。

### ③神のしもべたちは神に仕える

完全な奉仕の実現。

仕えるは礼拝と訳すこともできます。神のしもべたちは、すべてのクリスチャン・  
旧約時代のすべての聖徒たち・艱難時代に信じたすべての人たち・千年王国でキリ  
ストについたすべての人たち。キリストを仰ぐすべての人たちが完全に奉仕する。  
礼拝する。

一番幸せな人って、どう思いますか。幸せな人ってどんな人かな。  
色んな定義があると思いますが、私は“自分が理想だと考えていることと実際の自  
分が一致する人”ではないかと思うんですよ。  
こう生きたい—実際にそう生きれてる。その時、その人は充実していると思います。  
そして、人生に自信を持っていると思います。真っ直ぐに胸を張って生きていける。

でも、こういう風に理想的に生きたいと願っているけど、実際は、それを裏切るよ  
うなことをやめられない。本当はこうしたいのに、実際の自分はそれができない時、  
その人の中には葛藤がありますよねえ。  
神を信じて仰いでいる人たちは、神に仕えたい、神を礼拝したいと思ってるんです。  
思ってるんだけど、時として、持って生まれた性分が、それをさせないような状態  
にしている。でも、それが完全に一致するような、完全な奉仕ができる。

奉仕とか言うたら、なんか堅苦しいなと思うかもしれませんが、こういう話をするたびに思い出すのが『七人の侍』ですよ。今年10月 東京に行った時、東宝の映画スタジオの前まで行きました。入れなかったんです。

前に行ったらシンゴジラ、モニュメントがあって、ピースして撮って来ましたよ。そして、大きなスクリーンがあって、『七人の侍』のポスターが、モノクロですが描かれていました。『七人の侍』ご覧になった方、手を挙げていただけますか。ありがとうございます。あれ、映画館では、もう絶対観れないと思うんですよ。というのは3時間半なんです。途中トイレ2回くらい。僕は2時間映画でも、最近ダメなんです。

ある村に毎年のように野武士がやって来て、村を荒らすんです。

今年も収穫の時期が近づいて、40騎の野武士がやって来るという情報を掴んで、「このままなら俺たちは飢え死にだ！」村長は「戦うぞ！」と決めたのですが、自分たちではどうしようもないので、侍を雇いに行く。

だけど、出せる報酬は、白いご飯をお腹いっぱい食べさせるということだけ。

「それくらいで命掛けれるか！」と全く相手にされなかったんですが、風変わりな侍と出会うんですね。島田勘兵衛。志村喬（しむら たかし）がやってましたね。

色んなことがあって、島田勘兵衛が引き受けることになるのですが、彼は剣の達人だけど、合戦の時にはいつも負け組の側で戦ってしまうんです。

個人の力量はすごい実力者なのに、自分の総大将がいつも負けるので転落し続けて、気がついたら50歳。当時の平均年齢を考えると今の80歳90歳の感じ。

だけど重い腰を上げて、やってやるかとなるんです。

その時、昔 合戦を共に戦った家来とバツタリ会うんですね。七郎次（しちろうじ）。彼は戦（いくさ）はもうこりごりで武士を廃業。侍をやめて商人（あきんど）／物売りやってる。勘兵衛が「出世にも報酬にも何も結びつかないが、やりがいのある戦いがある。俺に付いて来るか」と聞いた時、躊躇なく「はい」と言うんです。

私ね、このシーン、泣けるんですよ。「もう戦こりごりや」と言っているのに「俺に付いて来るか」と聞かれて、躊躇なく「はい」と言うことで、いかに勘兵衛に心酔して尊敬しているかが分かるんですね。

「ちょっと待て。今度こそ、ほんまに死ぬかも分からへんぞ」と言うと、にやっと笑って付いて行くんです。台詞はないけど、「あなたとならどこまでも行きます。あなたとなら死んでもいいですよ」というのを分からせるような脚本ですね。それを見た時、この人が大好きで、離れたくないという気持ちが伝わって来る。皆さん、そんな人がありますか。

自分の人生にイエス・キリストがなかったら今頃どうなっているかと思うと、キリスト無しの人生など考えられません。だから、勇気はないけど、最後までキリストのためにベストを尽くしたい、という気持ちでいっぱいです。

“ざっくり黙示録”も携挙で残った方々に見てもらおうと思ってやってるんですが、そんな願いがあるのに、時としていらんこと言ったり、しくじったり、失敗したり。俺って変わってないな、成長してないなと思うのですが、そういうことがない世界。完全な奉仕の実現がある世界です。

#### ④御顔を仰ぎ見る

完全な栄化の実現。

神の御顔という言葉が創世記、聖書全体の中で最初に出て来るのは、アダムが罪を犯し、神の御顔を避けて、木の間に身を隠したところから。

やましい気持ちがあったら、神の御顔を仰ぎ見ることはできません。

また、モーセは神によって特別に召された指導者ですが、神の後ろ姿は見たけど、神の御顔を直接見ることはできませんでした。

ところが、新天新地では神の御顔を仰ぎ見る。栄光の神の姿を仰ぎ見ても、びくともしない体になっている。黙示録の最初、栄光のキリストを見たヨハネは死人のようになりました。神の栄光をこの生身の体で仰ぎ見ると、耐えられないんですね。しかし、栄光の体に変えられているなら、神を仰ぎ見てもびくともしない。これは、完全な栄光の姿に変えられていることを表していると思います。

#### ⑤彼らの額には神の御名が記されている

完全なアイデンティティの実現。

反キリストに従う人たちは、額に 666 の刻印を焼き付けられますね。

それは、反キリストの所有物になったということです。

しかし、新天新地時代のクリスチャンの額には神の御名が記されている。

これは、神の所有物・創造主のものとなった。神に所属する者である。

「外見は内面の一番外側である」という言葉があります。

「ボロは着てても心は錦」。もちろん、それはあるかもしれませんが。

だけどやっぱり、表情やファッション・身に着ける物は、その人の内面が表に出て来ていることがしばしばあるんじゃないか。

最近タトゥーが流行ってるじゃないですか。クリスチャンにも全身タトゥーだらけの人いますよ。色んな考えがあってそうされると思いますが。

この前 YouTube で見たタトゥー、“負け犬”と彫ってるんです。「えーっ！」と。

“勝利者” “プライド” “勇気” “家族愛” とかなら、まだ分かる。

だけど、石鹸で洗っても消えない刺青で、自分の皮膚に“負け犬”って彫るんです。

なぜそんな風に彫るんですか。「皮膚に彫る前に、心に彫られているからでしょ」と彫り師が言ってました。自分の中で自らを「負け犬なんだ。敗北者なんだ」と思っている人が、外側に肯定的な前向きな言葉を入れられても、「自分のことじゃない」と思うから却って重荷になる。「私はつまらん人間です」という自分の正直な気持ちを彫ってしまう。それは、その人のアイデンティティになっています。

負け犬でつまらない人間だ。なぜ生まれて来たのか。そういうアイデンティティで生きることは、本当に人生が何倍も何倍も苦しいものになると思うんですね。

歌舞伎の世界で一番名誉なことは、伝統ある名前を襲名することです。

今まで“海老蔵”と名乗って来た人が“第十何代目 團十郎”襲名。

その時は襲名式があって、必ず言う言葉は「この團十郎の名に恥じぬよう、精進いたしまするー。」もう子役の時代は終わった。若手の時代は終わった。

いよいよ真打ちになる。團十郎なんだ！その名前にまだ到達してないけど、新しい名前を授かることで、「その名前にふさわしい自分になるように努力します」ということですよね。

新しい天と地の世界では神の名前を襲名している。神の名前が自分の中に付けられている。私は創造主のものになった。そして、そのことにアンバランス・不安定さを感じるのではなく、そうなのだと思に落ちている状態。これは、完全なアイデンティティが確立している世界です。経験したいと思いませんか。

#### ⑥ 神の完全な臨在の実現

**5a もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、ともしびの光も太陽の光もいらぬ。**

ともしびの光も太陽の光もないのに 24 時間いつも明るい。

「俺、暗くないと寝られへんねん。」この時、寝なくても大丈夫なんですよ。寝たけりゃ寝たらいいと思います。寝れる体ですよ。

もはや夜がない。神である主が彼らを照らされる。照らされる光は神の臨在／シェキナーのことです。聖書では、光・雷の音・スモークみたいに雲が立ち込めたりして、神がここにおられることを肉眼で分かるようにするんですが、新天新地は神の光が満ち溢れている。神の臨在にすっぽり包まれているということなんですね。

今から 13 年前、私は最初の妻を亡くしました。

それから 3 か月ほど経った時、娘が風邪ひいたんです。「寒い寒い」と言ってガタガタ震えて、薬飲ませても「寒い寒い。」それで、布団の上から毛布を何枚も、重いくらい掛けて。それでもガタガタ震えが止まらない。

すると彼女は起き上がって、洋服ダンスから母親のセーターを取り出して、それを着たんです。そして、何枚も重なっている布団の中に入って、うなされながら一晩寝て、翌朝すっかり良くなりました。

そして、私に「お母さんの夢見た」言うんですよ。お母さんにハグされてる夢。

実はそのセーターには、お母さんが愛用していた柔軟剤の甘い香りが。

お母さんがハグしてくれる時は、いつも使っていたその柔軟剤の香りが自分を取り巻いていたんですね。

そのセーターをすっぽり着たら、お母さんに抱きしめられている気がしたんでしょう。だから、ハグされている夢を見たと言ったんだと思います。

私はもう涙が止まらなかったですね。だけど、言ってる本人はね、笑顔なんです。「良かったあ！」って。何が人の心を慰めるんだろう。「ああ、この人が今ここにいてくれたら どんなにいいだろう」と思っているその人が、紛れもなくそこにいて、自分をギュッと包んでくれていたら、それ以上の大きな励ましや慰めはないと思うんですね。

新天新地は神の臨在の光が充満している世界です。どこにいても、神にハグされている心地で生きている。完全な臨在が実現している世界です。

### ⑦ 完全な公用の実現

**5b 彼らは世々限りなく王として治める。**

**3 神のしもべたちは神に仕える。**

しもべと王、どっちやねん?! どっちもです。

大臣は英語でミニスター。ミニスターはラテン語から来ていて直訳は“しもべ”。

総理大臣はプライムミニスター。プライムは“最上の・最良の”。

主人はマスター。マスターの反対語がミニスター/しもべ/大臣。

しもべ(ミニスター)が、なぜ大臣(ミニスター)なんですか。

仕えているのが大王だから。

なので、王に対してはしもべですが、王以外のすべてのものには王のように振る舞うのです。王の権力を代行するんですね。

彼らは世々限りなく王として治める。王の忠臣だから。忠実なしもべだから。

以上が7つの完全なことです。

**6 御使いは私に言った。「これらのことばは真実であり、信頼できます。」**

**預言者たちに霊を授ける神である主は、御使いを遣わして、すぐに起こるべきことをしもべたちに示された。**

5節までがヨハネが見た未来の預言なんですね。その預言が5節で終わって、それを受けて御使いが言いました。「これらのことばは真実であり、信頼できます。」それを皆さんにもお伝えしたいのです。今まで黙示録を縷縷(るる)説明して来ましたが、これらは真実であり、信頼できます。

今月、全国の私立小学校の校長先生が70人集まる研修会で、奈良に参りました。

公立の校長先生はだれもいません。全国の私立小学校の校長先生。

私はオブザーバーとして、何のオブザーバーかよう分からんのですが、入れていただいて、2日間研修会があったんです。私は2日目に参加しました。

2日目の講演者は奥田健次（おくだ けんじ）さん。自閉症、生まれつき脳の発達に偏りがある子供たちは、こだわりが強かったり、色んな問題がありますね。その子供たちに、行動分析という手法・アプローチで、非常に際立った成果を上げている方です。

もうね、聞いててヒヤヒヤしました。まず、文部科学省の全否定です。

「文部科学省はコロナの問題があるから自宅待機と言ってるけど、子供たちは学校に行かないことが習慣づいたら、解除されても、不登校になる子が一気に倍増する。それを未然に防ぐために、待機中も学校と同じ時間割で動くように、行動を導いていかないと大変なことになる」と言っていたのですが、皆まあまああと。

それで今、どんなことになっているか。不登校が爆発的に増えている。

ところが、統計上は不登校の数は増えていない。

お子さんが「おなか痛いから行きたくない」と言った瞬間、病欠になるからです。

でも、彼は言っていました。「病気かどうか診断できるのは医者だけでしょ。診断書もなく、子供が行きたくないと言ったからこれは病気だと、不登校としてカウントしないのは欺瞞である。皆さん、文部科学省は\*\*\*」と言ったんですよ。しかもパワーポイントで、文部科学省の方針がザーッとあって、その上に被せるように赤字でダダダと出て来るんです。

私ヒヤヒヤしたんです。少なくとも、2時間の講演の中で\*\*\*と6回言いました。私立小学校の校長先生とはいえ、文部科学省の方針に従って教育しているわけで、それを全否定するということは、自分たちがやっている教育を否定されるのと同じですから、中にはカチーンと来る人がいて「何てこと言うんだ！」とか、何か起こるんじゃないか、一乱あるんじゃないかと思ってね、ドキドキ、ちょびつとワクワクしながら、どうなる どうなると見ていたんです。

ところが、その講演が終わるや否や、彼の前に校長先生の列ができたんですよ。

みんな同じようにしてました。名刺すぐ渡せるように持ってるんです。

「こういう者です。うちの学校に来て講演していただけますか。」「うちの教職員にアドバイス頂けますか。」「今学校でこんな問題があるんですけど、具体的にどう言ったらいいでしょうか。」みんな悩みを抱えて、ずらっと並んでる。

あんなに「アホです」とか言ったのに、なんで殺到したかということ、講演のラストにビデオが上映されたんです。

ある小学校で、発達障害のお子さんをずっとビデオに撮っているのですが、この子は先生に暴力を振るうんです。先生が「やめなさい！やめなさい！」言うのですが、ポカポカポカポカ！暴力を振るえないようにすると、次にやるのは自傷行為。

その子の場合には頭突き。コンクリの壁に頭を打ち付ける。ゴチン！ゴチン！

しまいには床ですよ。床に思いっきりガツン！ガツン！ぶつけ続ける。

ある時はグーで自分の目を叩く。失明しますよ。

